

と一致するよう懇諭するを要す。若し諸子の説を聴かざるものあらば課長の許に出頭する様傳へられたし。又幸にして諸子の説論を聴かば此嘆願書を撤回ありたく、何れにしても該嘆願書は同日午後四時に受取に来るべき旨を約して一時課長之を預り置き、五十八歳の老機關將官間瀬氏が嘗て軍部にありし日の心術と態度をそのまゝにして組長を訓諭せし言々句々に興なからず。

尙課長は更に参考として組長の中分なるものを徴したるに「本年三月以降懸賞工事廢止並に殘業日曜出勤の休止に伴ひ収入減せしを以て何等かの方法により救済せられ度し」とあり。之に對し「會社は此問題に就き協議中にして目下工事中の一〇七番船「デーゼルエンジン」の運轉を終らば之を機として収入補給の手段を取ることとなり居れり。此處二三ヶ月會社を信賴して待つべき旨を懇談し組長一同は是を諒として引取り、午後四時過組長一名再び工作課長に面會し一般職工之に納得せりとの保證は出來ざるも兎に角嘆願書は取り下げ度き旨陳述して持ち歸れり。

内燃機工場仕上職九十餘名は廿五日定時退出後再び職工丸山方に集合協議の結果、綱領及規則書案を作製し翌廿六日（日曜日）を期し神戸發動機組合發會式を楠公社前日本劇場に開催することとなり。

**發動機組合發會式** 二十六日午前九時日本劇場に於て神戸發動機工組合發會式舉行、出席者約四百名、司會者梶川盛吉氏開會を宣し宮堂安二氏を座長に推して直に左の役員を選挙したり。

組長中川又一、副組長橋本佐市、會計高橋鶴吉、同補藤井建平、理事長宮堂安二、幹事梶川誠吉、井戸伊三郎、山崎藤男、丸山清朝、竹村茂三郎、幹事長内野喜平、森岡又一、石源萬一、川下安馬、松本勇太郎、清田長一、高橋伴吾、龜川槌衛門、生駒形吉、松尾作兵衛、島山隆雄、江南藤、澄川正雄、西端廣一、

## 宣 言

資本主義經濟組織が吾人に齎した結果は人間の機械化である、人間性恢復を期する爲めにはあらゆる手段を以て其の制度を改造せなければならぬ、然れども吾人は素りに過激に流れ奇策をたのみものではない、只團結の力に依り合理的方法に依り正義と人道とを背景としたる自由なる新社會の建設に努めねばならぬ。無産の民が唯一の力……それは團結である。されば茲に發動機工を糾合して労働組合を作り日本労働總同盟に加はり今労働階級の多數無産者の幸福を祈らねばならぬ。

## 綱 領

我等は共同の力により着々合理的方法によりて我等の地位を改善して互に親睦し一致協力相互扶助の目的を貫徹せん事を期す

## 決 議

破壊されたる人間性恢復運動の第一階梯として團體權の獲得を期す

當日柴田主事代理外一名友愛會より應援演説を爲して氣勢を添へたり。尙發動機工組合幹部は別室